

事実を知った上で布マスクは自信をもって使いましょう

今回は布マスクおよびサージカルマスクの事実についてお話を致します。その事実を知った上でいざという時は戦わざるを得ません。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生以来、マスク不足で世の中はパニックになってしまったと言えます。今一部の方々が布マスクを使うようになっていますが相変わらず不織布マスク神話が流布してしまっていてパニックは改善しておりません。おかげで「不織布マスク」の中の一定基準の機能を揃えた「サージカルマスク」が無くなり本当に必要な方々（COVID-19治療の現場の医療者）に不足が生じて再使用も余儀なくされています。COVID-19治療現場は一般の現場から比べれば何十倍何百倍何千倍の量のウイルスにさらされています。本来ディスポの不織布マスク（サージカルマスクはその一部？）ですが危険度の高いその現場でも既に再利用せざるを得なくなっていて政府も自己責任で再使用して下さいと言うようになっていきます。

布マスクもサージカルマスクも大きな飛沫はほぼ完全にブロックしてくれるでしょう。しかし空中に漂う「飛沫核」はどちらも完全にはブロックしてくれません。ブロックしてくれる割合は布マスク6割、サージカルマスク8割です。即ちそれぞれ4割、2割はすり抜けて吸い込んでしまいます。この違いは何百倍のウイルス高濃度の現場かどうかの違いから見ればこの差云々は意味がなくなります。そしてすり抜けたウイルスの全部ではなく何割かが感染力を持ったウイルスですが詳細はまだ分かっていません。

そんな中で、私たちの現場はまだリスクの低い一般の現場ですので布マスクで十分です。

しかし一旦私たち介護の現場にもCOVID-19が発生すれば途端に高リスク現場に一瞬で変わります。明日は我が身です。そうなったら少しでも機能の良いサージカルマスクに替えなければなりません。それでも追いつきません。どちらも完璧にはこのウイルスをブロックできません（逆にウイルスから比べれば巨大な穴だらけなのに良くブロックできると感心すべきです）。しかし、私たちにはそれしかなくそれで戦うしかありません。事実、COVID-19治療現場はその不完全な装備で戦っています。もし発生しても、空気の入替えや様々な防護具等でリスクを少しでも減らして戦うしかありません。

私たちにもいつの日か来る介護現場の介護崩壊の傷を最小限にすべく、今から備えなくてはなりません。マスクの使い方もそのほんの一部です。そのいつの日かに備えるためにそれまではなるべく布マスクを使い、いざという時のために数少ないサージカルマスクを温存致しましょう。

そもそも、現場の感染予防はウイルス一匹で感染するものではないし不活化していれば逆に免疫力のもとにもなり得ます。環境対策や接触予防対策等様々な対策の複合対策の結果が感染予防につながりますので、事実を知った上で恐れ過ぎずに冷静に、新型コロナウイルスに立ち向かって行きましょう。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。
私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。
私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話合いの3原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。